

2017年度③

訴訟法オプション試験

(全 4 ページ)

問 題

	ページ
民事訴訟法 ……	1
刑事訴訟法 ……	2

注 意 事 項

1. 試験開始の合図があるまで、この問題冊子の中を見てはいけません。
2. 解答用紙・下書き用紙は、この冊子の中に折り込んであります。
3. 解答はすべて解答用紙に記入しなさい。
4. 解答は指定された範囲に記載すること。「書き終わり」をこえて記載した場合は、採点をしないことがあります。
5. 試験終了後、問題冊子・下書き用紙は持ち帰りなさい。

民事訴訟法③

I 次の語句を 80 字以内で簡潔に説明して下さい。(10 点)

「自由な証明」

II 次の事案を読んで、下記の問いに答えなさい (90 点)。

XはYから京都市中京区内にある土地を4,000万円で買い受け、代金を完済したが、Yは登記を移してくれない。そこで、京都地裁に所有権移転登記手続を求める訴えを提起した(以下、本訴という)。この訴訟が係属中に、YがXを相手取って、本件土地につき、上記売買は解除したとして、①自己の所有権の確認、②Xが上記所有権移転登記手続請求権を有しないことの確認を求める別訴を提起した。

[1] この場合、別訴を提起された裁判所としては、どのようにこの訴えを取り扱うことになるのか。

[2] 本訴において、Yは、Xはまだ代金の全額を支払っていないと反論し、同時履行の抗弁権を主張する場合、裁判所は売買契約の成立を認めつつも、そのY主張の同時履行の抗弁権も認容する場合、請求棄却判決をすることになるのか。請求棄却以外の内容を判示するとすれば、それはどのようなものになるのか、また、そのような内容の判決は処分権主義に反することにならないか。

刑事訴訟法③

I 以下の〔1〕、〔2〕について、それぞれ100字以内で答えなさい。(20点)

〔1〕 別件逮捕・勾留を定義しなさい。(10点)

〔2〕 訴因対象説が考える訴因の本質について、述べなさい。(10点)

II 次の【事例】を読み、下記の設問にすべて答えなさい。(80点)

【事例】

- (1) 甲は、妻乙子の姪である丙子を甲方居宅に同居させ、父親代わりとしてその面倒をみていた。丙子が京都市〔中略〕所在の朱雀マンション104号室に引っ越すこととなり、平成26年6月2日および3日に、甲は、丙子の家財道具を丙子方居室に運び込んだうえ、同月3日の夜は、丙子らとともに甲方居宅に戻った。
- (2) 同年6月4日午前10時ころ、京都府中京警察署に、「甲が、運転する車両番号3308のベンツのトランクに覚せい剤5キログラムを隠しており、本日中に売りさばく予定だ」旨の情報が寄せられた。中京警察署のA警察官ら9名は3台の捜査用車両に分乗して甲方居宅近くに行き、同日午前11時50分頃から、甲方居宅の張込みを実施した。午後2時ころ、甲が運転する車両番号3308のベンツが、助手席に丙子を乗せて、甲方居宅駐車場から発進した。警察官Aらは、捜査用車両で、甲運転のベンツを追尾した。
- (3) 同日午後2時12分ころ、甲運転のベンツは朱雀マンション前に停車し、甲および丙子が同車後部トランクからペーパーバッグ数個を含む荷物を取り出し、丙子方居室に運び込んだ。
- (4) 警察官Aらは、甲が前記情報のおり大量の覚せい剤を丙子方居室に運び込んだものと判断し、朱雀マンションの張込みを実施した。同日午後3時30分ころ、甲が左手でスマートフォンを持ち、右手でペーパーバッグ1個を抱えるようにして丙子方居室から出て来て、ベンツの運転席ドアを開けようとした。そのため、同車近くで張込みをしていた警察官Aら5名の警察官が甲のところに駆けつけ、甲に対する職務質問を実施するため、警察官Aが警察手帳を示しながら声をかけた。声をかけられた甲

は、突然路上にスマートフォンを投げ捨て、ペーパーバッグを右脇に抱え、西方に向かって全力で走り出したため、警察官A、Bの2名が甲の後を追いかけた。

(5) 朱雀マンションから西方20メートル離れた場所で張込みをしていた警察官Cは、逃走してくる甲を認めたため、道路の中央付近で両手を広げ、「止まれ」と大声を出して甲に停止を求めた。甲は、警察官Cに衝突し、転倒した。転倒した甲に追いついた警察官Aは、甲の右腕を抱えるようにして立たせ、警察官B、Cとともに、甲を取り囲んだ。警察官Aは、甲の足元のペーパーバッグについて、その中身を尋ねたが、甲はこれに答えなかった。警察官Bが、警察官Aに対し、「ペーパーバッグを検査しましょう。覚せい剤が出てきたら、逮捕できます」と言ったところ、警察官Aは、「路上で逮捕はまずい。朱雀マンションの部屋まで行ってからだ」と答えた。

(6) 警察官Aら3人は、甲の両腕を警察官B、Cが掴んだ状態で、朱雀マンション104号室前に赴いた。同マンションにいた丙子に対し、警察官Aが、甲の話聞くために丙子方居室に入っているかどうかを尋ねたところ、丙子がこれを承諾したので、甲らとともに丙子方居室に入った。

(7) 丙子方居室内の入口付近において、警察官Aが、甲に対し、ペーパーバッグの中身について再度質問したが、甲が知らないというので、さらにペーパーバッグの中身を確認してもいいかと尋ねたところ、甲は、横を向いたままで答えようとしなかった。そこで、同日午後3時40分ころ、警察官Aは、ペーパーバッグの中に手を差し入れ、新聞紙包みを取り出し、さらにそれを開披して、ポリ袋入り覚せい剤1袋を発見した【行為①】。警察官Aは、甲に対し、「お前の覚せい剤だな」と質問したが、甲は黙っていた。

(8) 覚せい剤を発見した後、警察官Aは、同日午後3時45分、甲を覚せい剤所持の現行犯人として逮捕し、ペーパーバッグから発見されたポリ袋1つを差し押さえた。警察官Aは、丙子に対し、「他に覚せい剤を隠していませんか。室内を捜します」と告げた。そのさい、甲は大声で、「お前ら、なんでここを捜すんや。関係ないやろう」と言ったが、丙子は「いいです。室内を捜して下さい」と答えた。警察官Aらは、手分けして、丙子方居室内をくまなく捜索した【行為②】。この捜索の結果、同日午後3時47分ころ、警察官Dが、台所流し台の下に新聞紙に包まれているポリ袋入り覚せい剤2袋を発見した。そこで、同日午後3時55分、警察官Aらは、丙子についても、覚せい剤の共同所持の現行犯人として逮捕するとともに、丙子方台所流し台下から発見されたポリ袋2つを差し押さえた。

〔1〕 行為①は適法か違法か、論じなさい。

〔2〕 行為②は適法か違法か、論じなさい。